

明石一男先生・その全き人生

日原もとこ

5月14日、学会から明石一男先生の訃報が届いた。御高齢だったので、覚悟はしていたものの、さらにあることが、5月17日、後を追うように壽美田與市先生(82歳)の御他界だった。お二人ともデザイン学会の名誉会員、そして私の元職場(産工試 後述)のOBのみならず、その産工試出身者の大半が所属する外郭団体、工芸財団の新旧理事長を勤められた。不思議なこの符号の一致は一体何を意味するものなのか?若しかして、明石氏が自らをもって、産工試が歩んだ歴史の幕を引かれた時、壽美田氏の魂が感応したのかも知れない。

明石氏は1911年2月27日新潟県に生誕され、享年96歳だった。日本デザイン学会創設の志士だったし、名誉会員第1号、我が国デザイン界にとっても、御長寿NO1.の元祖だった。思えば、輝かしい数々の大先輩を生み出した産工試において、元来、不肖の末裔である私が、追悼文などお引受けする身分ではない。ところが、大分以前に本学会で明石氏へのインタビュー記事を担当したとかで、当時、同じ編集委員だった國澤氏の一声で決まったそうである。とはいえ、私にとっては雲上人であり続けた御方だから、明石氏の「ひととなり」を迂闊にお伝えすることは出来ない。それでも、産工試入所当時の印象は、意匠二部に配属された新米の私から見ると、意匠第一部長であった明石氏は終業後など廊下ですれ違つと、「お嬢ちゃん、早く帰らないといけないよ」(今なら、セクハラもの?)と優しい光頭族のヒッチコック風おじさまだった。しかし、若い先輩達にはかなりの畏怖の念があったのか、「明石さんはおっかないんだよ。元、憲兵だからね」と耳打ちされ、以来、すれ違つ度に緊張感が走つたものだ。

その明石氏は、3~4年間御一緒した後、東京教育大学教授に迎えられた。噂ではキャリアを買われ、激化した学生運動の鎮圧役として陣頭指揮をとられたという。その間、勝見勝理事長の後、本学

惜別、明石 一男 先生



会の理事長を引受けられ、定年後は東京造形大学学長、そして、工芸財団理事長を本当に永く勤められた。

御体調を崩された晩年の明石氏は以前の貴祿や威圧感は全く消え失せ、千駄ヶ谷の財団に通われる姿は昔気質の律儀な御隠居の風情だった。その執務室の隣室は氏よりもやや若かった芳武茂介氏と小池岩太郎氏は飲み仲間で、たわいのない芸術談義を交わす溜り場兼デッサンスタジオにもなっていたが、その小宴への誘いや、さんざめきにも一向に我関せずで、「私は血圧が高いので...それでは失敬。」と鞆を抱えて帰宅されるのだった。それほど健康管理には、厳しい御方だったが、果たして、ずっと威勢がよく、御酒好きの御両方の方が10年以上も先に往って仕舞われた。

さて、明石、芳武、小池先輩の名前を列ねたので、御3人が前述 産工試の歴史そのものだったことを語りたい。産工試とは、元産業工芸指導所(初代所長国井喜太郎氏)のことで、日本の産業活性化と輸出振興を狙い、伝統工芸の発展と近代化を担う国立研究機関だった。設立はS3年(1928 仙台市)であったが、S15年、東京(巢鴨)に進出。我国初の国立デザイン指導機関として元商工省(現経済産業省の前身)の下に置かれた。しかし、国立研として、一定の役割を終え、時代のニーズを反映すべく、後に産業工芸試験所 製品科学研究所 生命工学工業技術研究所 独立行政法人・産業技術総合研究所(現在)と、目まぐるしく改称

した。顧みれば、最盛期は時代の先端を目指し、戦前には、ブルーノ・タウトやシャルロット・ペリアン戦後にはE.ソットサス、G.ネルソン、ヌルミス、ヌエミなど世界的デザイナーを海外から招いて最新の知識や技術を吸収した。機関誌「工芸ニュース」は、戦後間もない頃から、各界デザイナー達の指針となり、多くのデザイナーを育てる。当機関からは、今は殆ど故人となったOBデザイナー(例えば、豊口克平、剣持勇、松崎福三郎、藤井左内、金子徳二郎、小池岩太郎、芳武茂介、服部茂夫、知久篤、小杉二郎、山口勇次郎、秋岡芳夫、新庄晃、金子至、寺島祥五郎、榎田均、壽美田與市等々)デザイン史に名を残す方々を輩出した。

この中で明石氏は、S11年に入所されたが、S16年に第二次世界大戦が勃発。途中で応召(S16~S19)し、S20年1月に復帰して間もなく、同年4月に東京大空襲があり、巢鴨本所は焼失。その後、金属資源枯渇とともに敗戦様相を呈してきた日本軍は、こともあろうに、この産工試に木製砲飛行機「飛竜」G2型機の完成を命じたのだ。期限は6月末までという。明石氏らは松本市の現場に張り付き、ヒロポンを打ちながらの昼夜兼行で、これに応えたそうだ。双発G2型機は、全幅30mという巨大なものだった。これに対して、米機は急降下銃撃をくり返し、作戦は成功したけれど、片や、隼戦闘機を模した飛べないG1型機 40数機の偉容は、空中からは格好の標的になって、大空爆に見舞われ壊滅した。それは、敗戦まで一月足らずのことだった。明石氏は、国家のために最善を尽くし、誇りだけが残つたと、しみじみ語られた。氏の人生には一貫して、国家の大事業を支えた誇りと達成感がついて回る。氏は一言で表せば、と前置きし、「我がデザイン人生は不悔不諦」と静かに微笑まれた。私の心境は、悲しみよりも、今なお耳元に鳴り響く、大先輩の金言に平伏するのみである。

合掌

生涯現役のデザイン行脚

尾登誠一

平成18年5月17日、壽美田與市先生ご逝去の知らせは、あまりにも突然でした。昨年より体調をくずされたこともあって、私は、非力ながらも先生が関わられてこられた、二つのデザイン顕彰事業の審査の代役をお引き受けし、他の審査委員の方々とともに全国に出張審査中の計報であった。

とにかく仕事が大好きな先生の精力的なデザイン行脚は、折りに触れ話題となり、厳正審査への心構えや緊張感を抱きつつ、本当に先生の足跡を実感しながらの審査であった。そして不惜身命・ぎりぎりまでデザイン啓蒙に傾注された壽美田イズムは、誠に日本的な細やかなデザイン観として、体験共有というかたちで私の内に強烈に焼き付けられたのです。その熱意は、30日間という長期にわたり現物審査をするという、精神的かつ肉体的な緊張と過酷さにおいて、昨年同行の委員の方々先生の体調を気になさるほど、至誠一貫、重責を担われていたと伺っている。それは審査後の見開き8ページにおよぶ新聞発表講評記事に接すれば、いかに先生が使命感をもち、デザインの社会啓蒙に命をかけていたかが、理屈抜きに理解できるのです。

壽美田先生は、大正13年石川県金沢市にお生まれになり、東京美術学校在学中、太平洋戦争の勃発とともに応召、昭和21年に帰国、翌22年に東京美術学校図案部を卒業されています。このような戦後間もない混乱期において、先生は商工省工芸指導所設計部に入所し、機能研究を立ち上げられている。周知のとおり、この時期のデザイン振興は、直接生活の質の向上をめざすというより、生活必需品の緊急増産に追われ、質より量の生産に汲々としていた状況であったはずで、このような社会背景において開発された、マツダ蛍光灯スタンドF0-1013(昭和29年)は、先生の処女作にして、戦後復興期の日本の家庭を明るく照らすグッドデザイン第一号に指定されるほど、端正なプロポーションと優しさに満ちた製品として、3年間の長期にわたり販売さ

惜別、壽美田 與市 先生



れ、人々に愛されたことが容易に想像できるデザインである。そして先生は、それを契機に以後インダストリアル・デザインの世界に生きようと決心されたこと、まさに三十歳にして立つという回顧を折々語られていた。

1960年から1974年までの15年間、日本経済は飛躍的な成長と発展を遂げた時期である。このような状況下において日本製品は、器用なコピー商品などのマイナスイメージを払拭し、高性能な製品としての評価を獲得、国際的にも通用するデザインの質の向上を課題としていた。ちょうどこの時期と重なる1963年からの13年間で、先生は豊口デザイン研究所専務取締役として、光学機器や情報機器という新分野のデザインに関わられている。いわば日本におけるデザインの成長期に、先生は、機が熟するのを予感するように、高い工業技術を背景として、小型情報機器の先駆けとなった超小型のカセットテープレコーダー、ズイコー・パールコーダー(1963)や人間工学的観点から開発された大型タンカー搭載の自動操舵装置オートパイロット(1967)、また16mm映写機の定番となったオートローディング標準映写機(1970)などの多くの傑作をデザインしている。いうなれば、壽美田流デザインの真骨頂として、日本の技術的優秀さにみあうインダストリアル・デザインの手本を多く残されている。特に1975年、日刊工業新聞社主催の機械工業デザイン賞を受賞したシステム生物顕微鏡は、名実相伴うメイド・イン・

ジャパンを代表する製品として、高度な職人気質を感じさせる凛とした精密機器の緊張感と、一切の妥協を許さない威厳のある風格を堂々とデザインしている。過度な表層的デザインが横暴するなか、真に技術と造形のバランスを見事に融合させた代表作として、一層輝きを増すのである。そしてこれらのデザインは、機器がもつ精緻な性能や品質、そして操作性は勿論のこと、操作環境への適合等を本質から理解し、さらに造形へと収斂させる、職人的なスキルがないかぎり成立し得ず、まさに先生の独壇場であったようだ。

母校、東京芸術大学における研究・教育活動は、1976年のデザイン科開設を起点としている。私は先生より1年遅れての助手として、当時小池岩太郎教授、壽美田與市助教授が専任として機器デザインに所属していた。この時期、先生の経験豊かなデザイン観は、穏やかで細やかな造形センスのみならず、実直なお人柄と、頑固なまでのこだわり、そして我々後輩には真似できない完璧主義で終始貫かれていた。おそらくそれは課外授業で垣間みた、釣りや登山における先生の完全装備からもうかがい知ることができた。授業中みせた身振り手振りのジェスチャーを交えての「壽美田節」が懐かしい。ものづくりに中途半端を嫌う先生であった。それを学生達に伝えようと思いい、あらためてご指導を仰ごうと思っていた矢先のできごとであり残念でならない。今、大学や学会が志向する、社会連繫を先生は先見の目で予感していたのかもしれない。とにかくデザイン学の社会的応用展開を実践することに一生懸命だった。芸大退官後は、東京芸術大学名誉教授、拓殖大学工学部教授、中国上海交通大学顧問教授、そして発明協会参与、工芸財団理事長、日本デザイン学会名誉会員等の役職、重責をまっとうされ、生涯現役のデザイン行脚に82歳で終止符を突然うたれた。法名【釋歆與】、デザインをもって人々に喜びを解き与える先生ならではの戒名である。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

平成18年度総会報告

本部事務局

平成18年6月30日(金),金沢21世紀美術館において,平成18年度総会が開催されました。開会に先立ち,進行役の國澤本部事務局長より,出席者数は,会場出席者65名,委任状出席者242名の307名(定数203名)となり,総会が成立することが確認されました。

つづいて,杉山会長より,本年度は「ひろくデザイン界の発展に資する学会に」の方針に基づき基本施策を推進する旨の説明がなされました。

議事にうつり,議長団として,志甫雅人会員(石川県デザインセンター)と古屋繁会員(拓殖大学)が選出され,両議長の進行により議事に関する審議が行われました。

議事では,はじめに蓮見孝副会長から平成17年度の活動報告があり,つづいて渡辺誠前本部事務局長より平成17年度の決算案が説明され,宮崎清監査の会計監査報告がありました。その後,会場からの質疑,議決を経て承認されました。

さらに,蓮見孝副会長より,平成18年度事業計画と平成17年度の予算案の説明があり,質疑応答,議決を経て承認されました。

以上の総会審議につづき,名誉会員証の贈呈式が挙行され,総会は終了しました。

今回,名誉会員となられた会員の方は,飯岡 正麻会員(名誉会員55号),渋谷 邦男会員(名誉会員56号),田中 淳会員(名誉会員57号),宮崎 紀郎会員(名誉会員58号),吉田 武夫会員(名誉会員59号)の5名です。

総会の詳細については,会報末に総会資料を掲載いたしましたので,ご参照下さい。



杉山和雄会長による平成18年度活動方針説明



飯岡正麻名誉会員のご挨拶



蓮見孝副会長による平成17年度活動報告



田中淳名誉会員への名誉会員証の贈呈



渡辺誠前本部事務局長による平成17年度決算報告



宮崎紀郎名誉会員のご挨拶



宮崎清監査役による平成17年度会計監査報告



会場風景

第53回研究発表大会報告

大会実行委員長 田浦俊春

平成18年6月30日より7月2日までの3日間、金沢21世紀美術館および北陸先端科学技術大学院大学に隣接する石川ハイテク交流センターにおいて、日本デザイン学会第53回研究発表大会が開催されました。

本大会では、金沢美術工芸大学と北陸先端科学技術大学院大学が開催校を務め、金沢で11年ぶりに開くに相応しい大会となるよう努力してまいりました。まず、大会テーマを「美と知のデザイン」と設定いたしました。これは、両開催校をもじったものではありませんが、大会がデザインの未来像を語る場であるとする、そこでは、「美意識」と「知性」が重要な役割を演じると考えたからでもあります。本大会では、「美と知のデザイン」のテーマのもとに、具体的な内容を検討し、会場の選定や各種イベントの構成、さらには会場内の雰囲気づくりに工夫したつもりであります。

会場は、第1日目は金沢21世紀美術館、第2日目と3日目は北陸先端科学技術大学院大学としました。第1日目には、総会および受賞者記念講演、勝見勝賞授賞式(宮崎清先生)基調講演と特別講演を行いました。午後より開会式が行われ、実行委員長の開会宣言のあと、杉山日本デザイン学会会長の開会の挨拶があり、次に、開催校を代表して潮田北陸先端科学技術大学院大学学長が挨拶申し上げます。基調講演では、金沢美術工芸大学の平野学長より、「心あるデザイン」と題したお話をいただきました。デザインにもっとも重要なことはなにか? という問いかけに対するひとつのお考えを示されたように感じられました。次に、特別講演として、金沢21世紀美術館の蓑館長より「美術館が街を変える」と題したご講演を頂戴いたしました。美術館の新しいあり方に



21世紀美術館での平野金沢美術工芸大学学長による基調講演

についてお話ししましたが、これはデザインの将来像にも共通するものがあつたように思います。

その後、参加者の方々にはエキスカージン「金沢市のバリアフリー、ユニバーサルデザインを体感」「金沢の景観」「蛸屋での夕食」や美術館の展示をお楽しみ頂きました。

2日目および3日目には、石川ハイテク交流センターにおいて、研究発表(口頭およびポスター)とオーガナイズドセッションを行いました。オーガナイズドセッションは、第2日目には「CPDを念頭に置いたデザイナー資格に関するデザイン界の動向」と「伝統素材と感性デザイン」が行われ、第3日目には「基礎教育としてのデザイン」と「デザイン業務における新しいベクトルの構築」が行われました。オーガナイザーのご努力のおかげで、4件とも、充実した内容のものとなりました。また、2日目には金沢全日空ホテルにおいて懇親会を開催し、多くの方にご参加いただきました。

さて、石川ハイテク交流センターは、専用の会議場でもあり、本大会のコンセプトに相応しいと考え選定いたしました。残念ながら金沢市内から若干

離れたところに位置しているため、金沢駅より送迎のためのシャトルバスを運行いたしました。運行台数は、大型バスで延べ21台にのぼりました。本大会においては、研究発表のあり方として、従来からの会員による研究発表だけでなく、それに加えて、いくつかの新しい試みに挑戦いたしました。ひとつは、テーマセッションと呼ぶものであります。これは、予め研究発表受付時に、研究部会が口頭発表のテーマを提示し、会員はそのテーマでの発表を希望できるというものです。また、そのセッションのプログラム編成は研究部会に委ねられ、必要に応じて基調発表(キーノートスピーチ)を編成することができます。このことによって部会の活動成果を大会において公表することができ、一般会員との交流もできますので、部会活動の活性化につながります。また、大会は支部活動のひとつと位置づけられるのがよいのではないかと考え、あるいは、大会が学会外部との交流の場でもあってもよいのではないかと考え、第3支部の活動を紹介するパネルを展示して頂いたり、産学連携を行っている地元企業にパネル展示をお願いしたり、さらには、北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究

科の教員にも各研究室の研究内容のパネル展示を依頼したりラポツアーを企画いたしました。

本大会のもうひとつのコンセプトは、いろいろな意味での質の向上にあります。大会がたんなる研究発表の場ではなく、会員同士あるいは関連研究者との交流や意見交換の場であり、しかも、質の高い議論ができるような雰囲気づくりをするために、先に述べましたように専用会議場を利用しましたが、さらに、会場内外に交流スペースを確保したりコーヒーサービスを定期的に行いました。大会中に、議論の輪が絶えることなくいたるところにできていたのは、非常に結構なことであったと思っております。また、研究発表の質の向上を目指し、規範となるような研究発表に対して大会委員長よりグッドプレゼンテーション賞を授与することにいたしました。学会本部との連携のもとに大会実行委員会に設けられた選考委員会において厳正に審議された結果、10件の発表が選ばれました。

本大会では、車椅子でご来場される

方やお子様連れでのご来場される方にできる限りご協力するために、あらかじめ大会ホームページに私どもでお手伝いできる内容を掲載いたしました。実際には、お子様をケアするための部屋を提供したいというお申し出があり、会場2階にあるベッドルームをお貸しいたしました。また、車椅子でご来場された方がお一人おられました。

以上が大会の概要ですが、結果として、研究発表申込数234件(うち発表取消5件)、参加受付人数486名となり、非常に多くの方にご参加頂くことができました。心より感謝申し上げます。また、本大会の運営に際しましては、杉山会長をはじめ学会本部の先生方や、開催校、地元自治体など、多くの方のご支援をいただきました。本来であればお一人ずつお名前を記して感謝申し上げるところではありますが、誌面の関係で割愛させていただきます。なにとぞご容赦ください。なお、本大会の運営は、大会実行委員会のほかに、スタッフ35名(社会人5名、学生30名)の体制のもとに行なわれました。スタッフの献

身的な活動のもとに本大会が無事に終了できましたことをご紹介します。

また、本大会の内容は、テレビ金沢などにおいて報道されるとともに、北陸中日新聞と北國新聞において大会前後の数回にわたり掲載されました。本大会をきっかけに、日本デザイン学会および金沢地区での学会活動がますます発展することを期待し、大会のご報告とさせていただきます。



研究発表風景(石川ハイテク交流センター)



ポスタセッション風景(石川ハイテク交流センター)



会場風景(石川ハイテク交流センター)



石川ハイテク交流センター・外観



左から、杉山日本デザイン学会会長、平野金沢美術工芸大学学長、潮田北陸先端科学技術大学大学院大学学長

平成18年度第1回理事会議事録

日時：平成18年4月15日(土)
13:00～15:30
場所：筑波大学 東京キャンパス(茗荷谷) 大学院会議室
出席者：杉山, 青木(弘), 阿部, 植村, 大島, 大平, 岡崎, 清水, 工藤(卓), 工藤(芳), 酒井, 佐藤, 白石, 田浦, 田村, 永井, 中嶋, 生田目, 西川, 蓮見, 降旗, 細谷, 松岡, 國澤, 小野, 八馬
委任状出席：青木(史), 石川, 面矢, 國本, 久保, 車, 須永, 三橋, 森田, 両角, 原田, 宮崎,

1. 会長挨拶

杉山会長より挨拶がなされた。

2. 平成17年度第7回理事会議事録の承認 八馬本部事務局員より平成17年度第7回の議事録案が提示され, 承認された。

【審議事項】

3. 平成18年度活動方針 (杉山会長) 杉山会長より, 以下の5つを基本方針とする平成18年度の活動方針について, 別紙の資料に基づき説明がなされた。

- 学会のありようについての包括的な改革推進
 - 国際的学術連携と国内他学・協会, 産・官との事業連携の強化
 - 法人化に向けた検討
 - 会員の拡大と財務の改善
 - 広報活動の強化
- また杉山会長から, この他に取組むべき活動を次の理事会までに, ご提案頂きたいとの要請がなされた。

4. 平成18年度学会組織について

(杉山会長)

杉山会長から, 別紙の組織案について説明がなされた。今までと大きく異なる点は,

・本部事務局, 選挙管理委員会など, 位置づけの明確化

・事業委員会を, アクレディテーションと継続教育・資格制度それぞれに注力できるよう分ける。

・企画委員会に支部企画を設け, 支部の役割を明確にする。

であるとの説明がなされ, 審議の後, 承認された。また杉山会長から, 次の理事会までに, 幹事を推薦するよう要請がなされた。

5. 平成18年度春季研究発表大会について (田浦大会実行委員長)

田浦大会実行委員長より春季研究発表大会について, 別紙の資料に基づき説明がなされた。3月27日時点で234件の研究発表の申込みがあったとの報告がなされた。また申込件数が想定より多くなったため, 3日目の終了を夕方にする事, 初日はオーガナイズドセッションを行わず, 2日目, 3日目に行うこととしたとの報告がなされた。車椅子やお子様連れでご参加される方に対しては, ホームページ上で情報提供を行い, 同時にボランティアの募集も行う予定であるとの報告がなされた。

6. 平成18年度日本デザイン学会第53回総会式次第について

(小野本部事務局員)

小野本部事務局員から第53回総会式次第について説明がなされ, 以下の修正がなされた後, 承認された。

- ・「平成18年度予算案の説明」 國澤本部事務局長 蓮見財務委員長
- ・「平成18年度事業計画」 杉山会長 蓮見副会長
- ・「司会」 総会担当理事 本部事務局長

7. 名誉会員推挙について (杉山会長)

杉山会長より, 別紙の資料に基づき名誉会員の推挙案が提示され, 審議の結果, 吉田武夫氏, 渋谷邦男氏, 宮崎紀郎氏, 飯岡正麻氏, 田中淳氏の5名を名誉会員に推挙することが承認された。

8. 平成18年度秋季企画大会および平成19年度春季研究発表大会について (杉山会長)

國澤本部事務局長から, 平成18年度秋季企画大会は首都大学東京を中心として, 「地方行政とデザインプロモーション(仮)」というテーマで開催する方向で検討中であるとの報告がなされた。

また, 杉山会長から, 平成19年度春季研究発表大会について, 河原林先生から, 静岡文化芸術大学のある浜松地区での開催のご提案を頂いたとの報告がなされ, それぞれを開催地として検討を進めることとした。

9. 平成18年度 学会運営スケジュールについて (小野本部事務局員)

小野本部事務局員から平成18年度学会運営スケジュールについて説明がなされた後, 承認された。

10. 会員の移動について

(八馬本部事務局員)

本部事務局に提出された書類を回覧, 審査した結果, 入会[正会員28名(内外国人5名)], 退会[正会員13名]が承認された。

記録：小野

平成18年度第2回理事会議事録

日 時：平成18年5月27日(土)
13:00～16:00
場 所：キャンパスイノベーション
センタ-(田町)多目的室4
出席者：杉山、青木(弘)、蓮見、
青木(史)、五十嵐、大平、
清水、工藤(卓)、工藤(芳)、
車、酒井、佐藤、白石、
田浦、田村、永井、生田目、
両角、國澤、阿部、
高橋前監査
委任状出席：石川、植村、大島、岡崎、
面矢、國本、久保、黒川、
須永、中嶋、原田、降旗、
細谷、松岡、三橋、宮崎、
森田、山中、八馬
欠 席：西川

1. 会長挨拶

杉山会長より挨拶がなされた。

2. 平成18年度第1回理事会議事録の承認

青木副会長より平成18年度第1回理事会の議事録案が提示され、一部の記載の誤りが訂正され、承認された。

【審議事項】

3. 平成17年度決算・監査報告について

(松原本部事務局員・高橋前監査)
松原本部事務局員から概説があり、高橋前監査から適正な執行であった旨報告がなされ、承認された。また、高橋前監査から監査役を退任するにあたって、幹事制度の積極的な活用、部会および支部活動の活性化を望むとの主旨の意見が出され、青木副会長により主旨の確認がなされた。

4. 平成18年度予算案について

(國澤本部事務局長)
配布資料に基づき説明がなされ承認された。大きな変更点としては、本年度の基本方針である支部の積極的な

活動に向けて、予算の増額がなされた。

5. 平成18年度春季研究発表大会について

(永井春季研究発表大会担当理事)
配布資料(プログラムおよびチラシ2種類)に基づき、大会内容について説明がなされ、今年度大会の主旨、3日間にわたるプログラム、会場などについて説明がなされた。また、大会に係る各種の申込みについて、期限を厳守してほしい旨連絡がなされた。

6. 第53回研究発表大会の座長案とグッドプレゼンテーションの選考について

(工藤概要集編集委員)
座長候補案について説明がなされ、候補案を再考し、各候補者に依頼することとなった。次に、グッドプレゼンテーションについて、選考委員や選考方法等について説明がなされた。杉山会長から、本表彰は大会実行委員会での掌握事項であるとの説明を受け、選考委員は実行委員会の委員を主として選考することとなった。また、評価にあたっては、評価基準を記したシートを作成し、それに基づいた選考を実施することとなった。

7. 平成18年度秋季企画大会について

(國澤実行委員)
配布資料に基づき、大会概要が説明され承認された。プログラム内容について詳細は検討中のものもあるが、10月14日(土)の日程は確定している旨報告がなされた。

8. 委員会幹事について

(國澤本部事務局長)
配布資料に基づき、各委員会および支部の幹事について報告がなされ承認された。なお、広報委員会のみ人選中である旨報告がなされた。幹事長を決める必要があるとの指摘がなされ、「論文審査・論文集編集委員会」「学会誌編集・出版委員会」「事業委員

会・アクレディテーション」「継続教育・資格制度」の各委員会から候補者の名前が挙げられた。

9. 会員の移動について

(國澤本部事務局長)
入会68名(内19名の外国人会員)、退会11名、差し引き57名の増員である旨報告がなされた。

10. その他

・デザインシンポジウムについて(永井先生):6学会が参加する「デザインシンポジウム」について説明がなされ、4年後に幹事学会となることを含め、日本デザイン学会としても積極的に取り組むことが確認、承認された。また、本学会での担当は松岡理事とすることで承認された。

・論文集等の抄録公開について(生田目広報委員会委員長):国立情報学研究所からの照会で、論文集、大会号、作品集、特集号の抄録(基本データ)に関する公開可否の確認がなされ、公開することで承認された。

【報告事項】

11. 事業委員会(CPD担当)について

(五十嵐事業委員会委員長)
資料に基づきCPD連絡協議会(2006年4月29日開催)の報告がなされた。経済産業省においても、新たな取り組みが開始したこともあり、各種情報を収集の上、継続して検討していくこととなった。

12. 平成17年度委員会活動報告および平成18年度委員会活動方針

(國澤本部事務局長)
杉山会長から、活動方針の明確化という観点から総会に向けて、資料の修正を指示したい旨指摘があった。また、杉山会長から、法人化に向けて、各種作業を速やかに準備していきたい旨意見がだされ、確認された。

13. その他

- 以下の件について、報告がなされた。
- ・ホームページのリニューアルについて(生田目広報委員会委員長)
 - ・著作権の譲渡について(生田目広報委員会委員長)
 - ・作品集の募集について(佐藤作品審査・作品集編集委員)
 - ・名誉会員の推挙基準の明確化について(杉山会長)
 - ・会員名簿の作成の進捗状況について(工藤理事)

14. 次回理事会日程(拡大)(評議員会)について

平成18年6月30日(金)12:00~13:00
金沢21世紀美術館第一会議室

記録: 田村・阿部

第53回研究発表大会 「グッドプレゼンテーション賞」

春期大会実行委員長 田浦
春季大会概要担当理事 岡崎・工藤

グッドプレゼンテーション賞は「研究発表のレベルアップ」を目的として、模範的な研究発表に授与されるものです。初めての試みとなった今回は、座長の皆様のご協力を得ながら、春季大会概要集担当理事を委員長とし、青木副会長と蓮見副会長のご協力のもとに、大会実行委員会内に設けられた選考委員会において選考にあたりました。選考の経緯の詳細につきましては紙面の関係で省略させていただきますが、選考委員が学会の論文審査基準に準じて概要と発表を精査し、10件の受賞発表(連続発表は1件と数える)を決定しました。発表者の皆様には、後日、賞状をお届けします。受賞発表は以下のとおりです。なお、敬称と所属は割愛させていただきます。

形のマクロ情報「複雑さ」とデザイン
(氏家良樹、松岡由幸)

柏崎栄助と九州クラフトデザイナー協会(車政弘)

キャンパス・アメニティの形成に関する研究 その1・2(水野雅生、申珠莉)

道路のシークエンス景観における「飽き」と路傍植栽の関係に関する研究(張挺、八馬智、杉山和雄)

自然言語文との相互変換を目的とした絵文字デザイン(大江原容子、伊藤一成、橋田浩一)

自己の注目する特徴に基づく形状創成システム(柳沢秀吉、村上存)

東京工科大学における「基礎演習デザインの基礎」の現状と課題(1)・(2)(佐藤紀子、黒瀬陽代、若林尚樹)
The Attractiveness of The Yilan International Children's Folklore and Folk-game Festival in Taiwan (Ma Min-Yuan, Tseng Li-Tan, Hou Mo-

Li)

「芸術刺繍」におけるウィリアム・モリスの影響(山本麻子)

電子フォームデザインのための人のふるまいの観察(寺沢秀雄、木幡愛理、小野田篤、山崎真湖人)

会員の皆様におきましては、以上の受賞発表を参考に、よりよいプレゼンテーションを目指していただければ幸いです。

第53回研究発表大会における 発表キャンセルの報告

春季大会概要担当理事 岡崎・工藤

以下の5件が発表キャンセルとなりました。この5件の概要は公的な研究発表としての効力を失います。お手元の概要集をご確認下さい。

D14 韓国の「アート・トゥ・ウェア」の位置付けと特性(趙採沃)

G07 A Study on the Smart Silver Town according to changeable Life-Style (Zhu Xueze, Chul-Oh JUNG, Yong-seong Kim)

H14 紙屋の看板について(立部紀夫)

P02 A Personal Haven (Siek Hwee Ling)

P45 The Experience of Turning The GACHAPON Consumer Culture (FAN Chen-Hao, HSIAO Ju-Fang, LEE Yun-Wen, FAN I-Hsin, LIN Rungtai)

第18回勝見勝賞表彰式

本部事務局

勝見勝賞は、1988年の制定以来、受賞者の選考については、東京アートディレクターズクラブ、日本デザインコミッティー、日本デザイン学会、日本グラフィックデザイナー協会、日本インダストリアルデザイナー協会の5団体

が持ち回りで担当してきました。18回目となる今回は、本学会の担当で、青木副会長を委員長とする勝見勝賞選考委員会を組織し、厳正に選考を進めてきました。詳しくは、総会資料に掲載された選考経緯をご覧いただくこととして、制定以来4度目の担当となる今回は、宮崎清氏を受賞者と決定し、さる平成18年6月30日(金)、平成18年度総会終了後に、第18回勝見勝賞の授賞式を執り行いました。

授賞式では、選考委員会の選考理由の紹介に続き、杉山会長より賞状と副賞の盾が、受賞者の宮崎清氏に贈呈されました。



第18回勝見勝賞表彰式 賞状の贈呈



宮崎清氏の受賞挨拶

募集案内

第8回日本感性工学会

大会

本大会は「早稲田の社から感性開花 - 感性に訴えるものづくり -」をテーマに、中西元男氏(早稲田大学戦略デザイン研究所客員教授、早稲田大学広報室参与)による特別講演、一澤信三郎氏(株式会社一澤信三郎帆布代表取締役社長)による記念講演をとおして、感性工学に関するより実践的で、活発な議論の場を形成して頂きたいと考えます。

日時: 9月13日(水) ~ 15日(金)

研究発表申込締切: 7月14日(金)

予稿原稿締切: 8月15日(火)

参加申込締切: 8月31日(木)

会場: 早稲田大学西早稲田キャンパス
19号館および国際会議場

(東京都新宿区西早稲田 1-6-1)

問合せ先:

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-21-1
早稲田大学ビジネススクール長沢研究室内
第8回日本感性工学会年次大会事務局
[担当者 鈴木]

Tel. 研究室直通 03-5286-3971

Fax. 大学院代表 03-5272-4533

E-Mail: jskeconf@jske.org

詳細は下記URLをご覧ください。

<http://www.jske.org/conf/jske8/>

2006 Advanced Aluminum Award

作品募集

アルミ製住宅および建築用アルミ構造材の設計開発、製造、販売会社であるSUS株式会社は地球環境時代の新素材・アルミの可能性拡大を目的にアルミを使った斬新かつ生活を豊かにするデザインを募る「2006 Advanced Aluminum Award」の作品を募集します。

応募締切: 9月23日(土)必着

主催: SUS株式会社

応募資格: プロ・アマ問わず

募集テーマ: アルミの特徴を生かした、今までにない建築、家具、プロダクトの提案

応募・問合せ:

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-5-1

ダヴィンチ新宿御苑9F

SUS(株)eoms事業部内

2006 Advanced Aluminum Award事務局

TEL: 03-5368-0388

E-mail: AAA2006@sus.co.jp

詳細は下記URLをご覧ください。応募用紙はダウンロードするか、事務局への電話注文で入手できます。

<http://www.sus.co.jp/eoms/>

協力: 株式会社アクシス

平成18年度(第28回)沖縄研究奨励賞

推薦募集

沖縄研究奨励賞は、沖縄の地域振興及び学術振興に貢献する人材を発掘し、育成することを目的としています。本奨励賞は、沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究(自然科学、人文科学又は社会科学)を行っている新進研究者(又はグループ)の中から、受賞者3名以内を選考し、奨励賞として本賞並びに副賞として研究助成金50万円を贈り表彰するものです。応募資格は、学会、研究機関若しくは実績のある研究者から推薦を受けた50歳以下(7月15日現在)の方で、出身地及び国籍は問いません。

応募締切: 9月30日(当日消印まで有効)

応募方法

所定の「沖縄研究奨励賞推薦応募用紙」に所要事項を記入し、研究成果物(論文3点以内、著書がある場合は1冊)、提出する研究成果物の要旨(A4判横書き各1,000字以内)、研究業績リスト(著書、論文等30点以内、A4判横書き)を添えて郵送により提出。

応募書類の提出先:

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-6-15 グローリアビル7F

財団法人沖縄協会 沖縄研究奨励賞係

受賞者発表: 平成18年12月上旬

贈呈式: 平成19年1月18日(木)

問合せ先: 「沖縄研究奨励賞」担当・

山岸 (TEL : 03-3580-0641)
詳細は下記 URL をご覧下さい。
<http://homepage3.nifty.com/okinawakyoukai/oubo.htm>

■ 第 6 回 グリーン・サステイナブル ■

ケミストリー賞候補募集

グリーン・サステイナブルケミストリー(略称:GSC)活動は、化学に係わるものが自らの社会的責任を自覚し、化学技術の革新を通して「人と環境の健康・安全」を目指し、持続可能な社会の実現に貢献していくことを目的とした世界的な活動です。

GSCの推進に貢献のあった個人、団体を称える経済産業大臣賞、文部科学大臣賞、環境大臣賞の候補者を募集します。

応募締切:10月31日(火)消印有効

応募書類提出先・問合せ先:

・郵送書類の宛先

〒1001-0051 東京都千代田区神田神保町1-3-5 富山房ビル2F

(財)化学技術戦略推進機構戦略推進部内GSCネットワーク GSC賞係

・電子情報の送付先

GSCネットワーク GSC賞係

E-Mail: gscn@jcii.or.jp

TEL:03-5282-7272 FAX:03-5282-0250

詳細は下記 URL をご覧下さい。

<http://www.gscn.net/>

■ アイヌの伝統・文化を題材にした ■

絵本の原作募集

アイヌの伝統や文化に関する幼児向け絵本の原作(絵と文)を広く募集します。最優秀作品を「幼児向け絵本」として制作し、道内幼稚園・保育所等に無償配布します。

応募テーマ:絵本のテーマ及び内容は、アイヌの伝統や文化に関するものとし、創作でも構いませんが幼児向けにふさわしいものとします。なお、口承文芸などを題材とした場合は、出典、聞き取り先等を明記し、語り手またはその権利の継承者から、

その使用についての承諾書を添付するものとします。

応募規定

応募作品は、絵本として自作で未発表、他のコンテストなどへ未投稿の作品に限ります。

グループでの共同制作や、複数点の応募も可能です。

今回制作する絵本は、表紙・裏表紙を除く28ページ以内です。ストーリーは14の見開き場面に展開できることを目安とし、文字量は500~1,500字程度(日本語に限る)としてください。

原画は、表紙・裏表紙とストーリーの見開き分で、14~30点程度とし、A4判(A3判の見開き可)を原則とします。

作品のねらい・解題を応募時に提出して下さい(応募申込書参照)。

応募方法

応募原稿に「応募申込書」を添付、本文原稿には「作品名・応募者名・ページ数」を、原画裏面には「作品名・ページ数」を明記の上、応募して下さい。

絵と文を別紙により提出する場合には、原稿の用紙等は自由とし、原画のページ数に対応させたページ数を原稿に指定して下さい。

応募締切:8月31日(木)必着

問合せ・応募先:

〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・7(7F)

(財)アイヌ文化振興・研究推進機構事業二課内「幼児向け絵本」係

E-Mail: ainu@frpac.or.jp

TEL:011-271-4171 FAX:011-271-4181

詳細は下記 URL をご覧下さい。

<http://www.frpac.or.jp/>

■ アルソア アート ウェーブ 2006 ■

作品募集

「水の持つ無限の可能性に注目すること」アルソアが創立以来研究しつづけているテーマです。全ての生き物にとって

水が必要であることからわかるように、水のチカラを核として「美容・健康」のための数々の製品を開発してきました。私たちのテーマ「水のチカラ」を、あなた自身の創造力でカタチにしてください。

応募締切:8月31日(木)必着

応募資格:女性(年齢、職業、国籍等は問いません)

応募作品:国内外に未発表の写真、絵画、グラフィックデザインなど(A5~A2サイズの範囲であること、手法、画法は問いません)

資料請求先:

「アルソア アート ウェーブ 2006」事務局 TEL:03-3927-8881

電話でエントリーしてください。

受付時間/9:30~17:00(土・日・祝・夏期休暇8月14日~15日を除く)

専用応募用紙、専用封筒以外ではご応募できません。

■ 札幌スタイル2006 ■

デザインコンペティション

札幌スタイルは、北国の自然と都市が共生する次の時代の生活像を追求し、質の高い生活を実現するために優れたものを探し出し、つくり出す活動です。札幌スタイルのものづくりのキーワードは『ゆったり/札幌スローライフ』、『もてなし/札幌ホスピタリティ』、『遊びごころ/札幌エスプリ』。北国・札幌の生活・知恵・風土と融合し、生活を豊かにする楽しくて、温かくて、面白くて、新しくて、美しい。そんな「スタイル」を持ったデザインを広く募集します。受賞者には、ビジネスサイドとのコンタクトやマッチングの機会を通して、応募作品が具体的に商品化されるチャンスが得られます。

テーマ:Design For Life

北国の生活をデザインする

応募締切:9月22日(金)必着

応募資格:応募資格は一切問いません。全国からご応募いただけます。個人でも団体、企業でも応募可能です。

居住地・勤務地・所在地も問いません。

応募部門

製品化を前提としたデザイン

北国の「装い」を楽しむ。「衣」の部：
衣料、衣料雑貨、アクセサリ、靴
などファッションアイテムに関する
もの

北国の「食空間」を演出する。「食」の部：
食器、キッチン道具、食卓まわりの
小物、食品パッケージなど食に関する
もの（食品は除く）

北国の「住環境」を快適に。「住」の部：
家具、インテリア小物、照明器具、文
具など住に関するもの

応募先：

〒060-0063 札幌市中央区南3条西6
丁目 セザール札幌 301

「札幌スタイル2006・デザインコンペ
ティション」作品係

問合せ先：

札幌スタイル2006・デザインコンペ
ティション 実行委員会事務局

TEL:011-211-2372 FAX:011-218-5130

E-mail:sapporo-style@city.sapporo.jp

詳細は下記URLをご覧ください。

[http://www.city.sapporo.jp/keizai/
sapporo-style/](http://www.city.sapporo.jp/keizai/sapporo-style/)

催し物

第8回世界ポスタートリエナーレ

トヤマ2006

世界ポスタートリエナーレトヤマ
(IPT)は、世界から最新のポスターデザ
インを公募し、審査・選抜展示する国際
公募展です。日本で唯一の国際公募の
ポスター展であるとともに、世界屈指
のポスター展として広く知られていま
す。1985年の創設以来、3年に1度のト
リエナーレ方式で開催しており、今
年で第8回展を迎えました。今回の公
募では、世界52の国と地域から3,632点
の応募がありました。本展では、入選作
品420点とその中から選ばれる受賞作品
に、審査員による招待出品を加え、世界
の最先端をいくポスターの数々を紹介
します。

日時：7月1日(土)～8月10日(木)

月曜日および祝日の翌日は休館

場所：富山県立近代美術館

富山市西中野町1-16-12

TEL：076-421-7111 TEL：076-422-5996

主催：富山県立近代美術館

後援：社団法人日本グラフィックデザ
イナー協会、「ポスターの街・とやま」
実行委員会

協力：YKK株式会社

観覧料：当日一般900円、大学生650円

小学生・中学生・高校生無料

タッチストーン

大橋晃朗の家具展

「Touchstone (試金石)」と題する本展は
孤高の家具デザイナー大橋晃朗氏の作品
を俯瞰する、逝去後、初の個展となりま
す。ネーミングの妙からも伺える家具へ
の深い思考を経て、時代時代に極めてオ
リジナルなデザインを展開した大橋氏の
家具はデザインに溢れる現代にこそ重要
な意味を持つのではないのでしょうか。

会場には、日本の伝統的な指物家具に強
く感心を抱いていた時期に作られた「木
地箱」から、遺作となった「カフェ・チェ
ア」までを一堂に集め、大橋氏の家具の魅

力を余すところなくお伝えします。

<展覧会>

日時：9月16日(土)～11月18日(土)

午前11時～午後6時(金曜日のみ午後
7時まで開館) 日曜・月曜・祝日休館
(東京デザイナーズ・ウィーク開催期間
中は無休)

場所：ギャラリー・間

東京都港区南青山1-24-3 TOTO乃
木坂ビル3F

監修：伊東豊雄、坂本一成、多木浩二

観覧料：無料

<シンポジウム「建築と家具 大橋晃朗
の家具展によせて」>

パネリスト：伊東豊雄、坂本一成、多木
浩二

日時：9月26日(火)午後6時30分～9時
場所：津田ホール(渋谷区千駄ヶ谷1-
18-24)

定員：490名 当日先着順受付

入場料：無料

企画：ギャラリー・間運営委員会(安藤
忠雄、川上元美、黒川雅之、杉本貴志)

主催：ギャラリー・間

後援(予定)：(財)日本産業デザイン振
興会、(社)東京建築士会、(社)東京都建
築士事務所協会、(社)日本建築家協会関
東甲信越支部、(社)日本建築学会関東
支部、(社)日本インダストリアルデザ
イナー協会、日本デザイン学会

協賛：TOTO

問合せ先：ギャラリー・間 担当：廣田
東京都港区南青山1-24-3 TOTO乃
木坂ビル3F

TEL：03-3402-0494 FAX：03-3423-4085

伝統文化における

紋様国際会議

第62回形の科学シンポジウムの1
セッションとして開かれる国際会議で
す。Kolam(南インド)、ケルト紋様(ア
イルランド)、SONA(アフリカ)、組み紐・
水引(日本)、宝結び紋(モンゴル、中
国、日本)など、世界に広く見られる一
筆書き/紐状パターンなど伝統文化の

中の紋様をテーマとした研究の交流を行ないます。

日時：11月3日(金)

場所：大阪大学

共催：KASF紋様会議、形の科学会、形の文化会

詳細：<http://www.soc.nii.ac.jp/form/62th-sympo.htm>

献本御礼

機関誌

- ・KUMAGAI UPDATE, No.56、(株)熊谷組、2006 予稿集・論文集・報告書
- ・デザイン理論 第48号、意匠学会、2006
- ・医療の質・安全学会 設立記念講演記録集、医療の質・安全学会
- ・北海道立工業技術センター業務報告 平成17年度、(財)函館地域産業振興財団
- ・Design シンポジウム 2006 講演論文集
- ・安全工学シンポジウム 2006 講演予稿集

会員の移動

平成18年度第2回理事会承認

2006.5.27

*新入会：正会員68名(内外国人19名)

赤瀬 達三	安部 容輔
家入 慎一郎	井上 治郎
上野 弘義	大江原 容子
大澤 隆男	大野 麻衣
織田 万波	加々美 淳
加地 梨恵子	梶谷 美香
川島 淳平	河原 政治
菅野 直樹	君島 裕
草間 正博	久保村 里正
河野 正之	小松 祐介
佐藤 尽	佐藤 洋介
柴田 高幸	周東 淳子
杉本 雅子	鈴木 翔
竹田 里美	田中 駿悟
田村 さやか	寺田 勝三
富田 誠	鳥巢 智行
中塚 暁志	初島 さつき
原川 純一	平田 一郎
福田 哲夫	正来 亮介
松浦 真理	水谷 奈那美
三井 康弘	矢崎 いづみ
安井 重哉	山口 大貴
山崎 一矢	山本 正美
吉川 浩	和田 章男
渡辺 有子	羅 彩雲
Li u L u	郭 全生

全 雪梅	蔡 馥繁
王 海冬	王 晗
李 ヒョンゾン	祝 陽
朴 仁淑	王 智連
趙 領逸	梁 元碩
陳 芳如	金 暎桓
鄭 鎮源	鄭 聖勳
MOHAMMAD MASUM IQBAL	
GEORGIEV GEORGI VENTSELOV	

*退会：正会員11名

河村 瑞江	高山 隆史
関 卓	中尾 早苗
長尾 智子	原 博
原木 せつ子	平田 哲生
前野 隆司	森口 和明
山中 良子	

名簿の訂正をお願いいたします

先日お送りしました会員名簿(2006年度版)に誤りがございました。お手数ですが、お手元の名簿を下記のとおり訂正して下さいますようお願い申し上げます。

当該会員にはご迷惑をおかけ致しましたこと、お詫び申し上げます。

P88 佐藤弘喜様・自宅データ

誤：岐阜県多治見市市之倉町175-94

正：岐阜県多治見市市之倉町7-175-94

P126 船津邦夫様・自宅データ

誤：熊本県熊本市京町6-65-202

正：熊本県熊本市京町2丁目6-65-20

本部事務局

ご確認ください!

「(株)ホクシン」名で名簿代金をご送金頂きましたが、該当する会員名がありません。入金処理ができず、困っております。至急、正会員個人名をご連絡ください。

連絡先：

Jssd@mx10.ttcn.ne.jp

又はFAX：03-3301-9319

本部事務局

平成 18/19 年度 日本デザイン学会役員選挙結果報告

日本デザイン学会 選挙管理委員会

先にWEB版の会報(No.178)で第一報をお知らせしております、3月25日開催の評議委員会における平成18/19年度役員選挙結果詳細を、以下に報告いたします。(以下、敬称略)

	選挙結果	選挙結果詳細
会 長	杉山和雄	会長選挙 会長選挙は、評議員投票第1回目で過半数を得た候補者がいなかったため、2回目の投票を評議委員会で実施、その結果、杉山和雄会員20票、青木弘行会員8票で杉山和雄会員が会長に選出された。
副会長	青木弘行	副会長選挙 副会長選挙では、評議員投票の第1回投票で過半数を得た候補者がいなかったため、2回目の投票を評議委員会で実施、その結果、青木弘行会員が17票の得票で副会長に選出された。
地区理事	第1地区 石川善美 降旗英史 第2地区 松岡由幸 清水泰博 第3地区 酒井正明 國本桂史 第4地区 面矢慎介 三橋俊雄 第5地区 車 政弘 田村良一 ()は支部長)	地区理事選挙 第1地区の地区理事選挙は、評議員投票第1回目で同数票を獲得した石川善美会員、早坂功会員、降旗英史会員の再選挙、再々選挙を評議委員会でを行い、石川善美会員が支部長、降旗英史会員が地区理事に選出された。 第2地区の地区理事選挙は、評議員投票第1回目で松岡由幸会員が支部長、清水泰博会員が地区理事に選出された。 第3地区の地区理事選挙は、評議員投票第1回目で酒井正明会員が支部長、國本桂史会員が地区理事に選出された。 第4地区の地区理事選挙は、評議員投票第1回目で面矢慎介会員が支部長に選出されたが、残る1名の地区理事は選出されなかった。第2回目の評議委員会投票では、第4地区の評議員出席がなかったため、選挙管理委員会において抽選を行い、三橋俊雄会員が地区理事に選出された。 第5地区の地区理事選挙は、評議員投票の第1回投票で車政弘会員と田村良一会員が同数で選出されたが、支部長を決めるにあたり、第5地区評議
全国理事	青木史郎 阿部眞理 植村朋弘 大島直樹 大平智弘 岡崎 章 工藤 卓 工藤芳彰 久保光徳 佐藤弘喜 白石照美 須永剛司 永井由佳里 中嶋猛夫 生田目美紀 西川 潔 蓮見 孝 細谷多聞 森田昌嗣 両角清隆	
監 査	宮崎 清 原田 昭	

員の参加が車会員本人だけであったため、協議の上、車政弘会員が支部長、田村良一会員が地区理事に選出された。

全国理事選挙

全国理事選挙は、評議員投票第1回目で森田昌嗣会員、岡崎章会員、両角清隆会員、須永剛司会員、永井由佳里会員、植村朋弘会員、中嶋猛夫会員、阿部眞理会員、大平智弘会員、細谷多聞会員、生田目美紀会員、工藤卓会員の12名が選出された。残る理事定員について評議委員会では2回目の投票を行い、西川潔会員、蓮見孝会員、大島直樹会員、工藤芳彰会員、白石照美会員、青木史郎会員、久保光徳会員の7名が選出され、続く第3回目の投票で、佐藤弘喜会員が選出され、定員20席の全国理事選挙を完了した。尚、全国理事に選出された蓮見孝会員は、第1回理事会で副会長に選出された（ ）。

監査選挙

監査選挙は、評議員投票第1回目で宮崎清会員、原田昭会員が選出された。

以上。

平成 18 年度 日本デザイン学会 秋季企画大会（概要）

日本デザイン学会・首都大学東京・産業技術大学院大学 共催シンポジウム 2006

都市のクリエイティビティ 産業・行政とデザイン/アートの共創

21世紀の産業・行政は、デザイン/アートを不可欠の要素としています。デジタル情報社会とグローバル化、さまざまなマイノリティの復権、そして環境問題など、21世紀的状况の中で、デザイン/アートが持続可能な「生き延びるための」生活の質を豊かに保障し、社会に活力を与える総合的かつ創造的な営為として何を成しうるのでしょうか。その課題の解決方向を、都市における産業・行政・市民・デザイン・アートのクロッシングに探ることは可能でしょうか。

このシンポジウムを契機に、今日的なデザインの課題の解明と新たな社会システムの構築が加速することを期待しています。

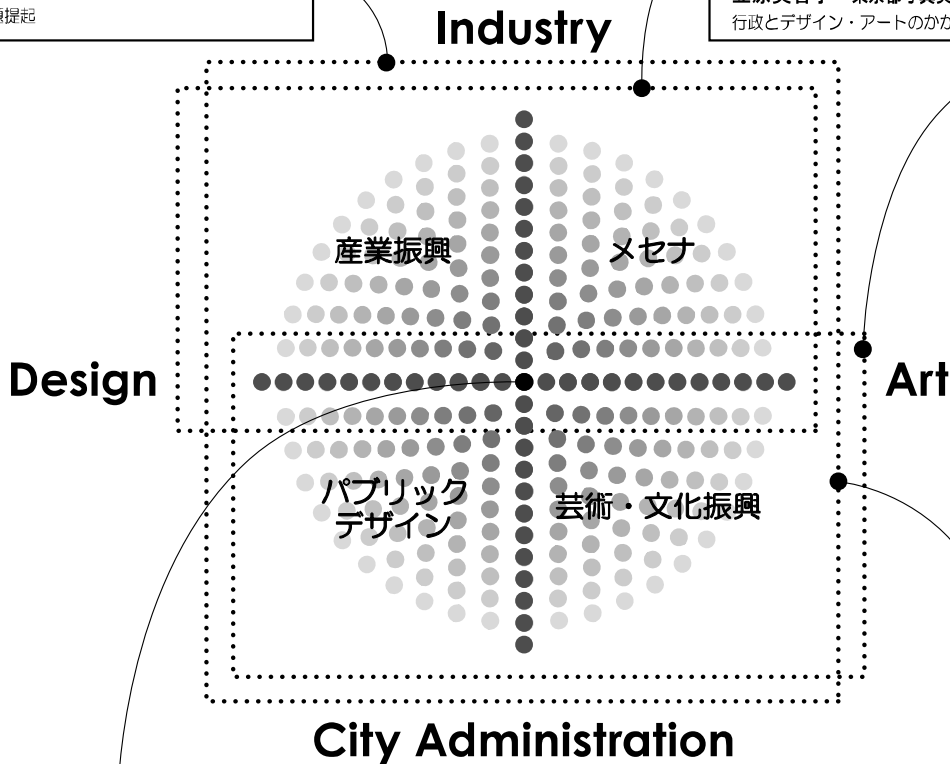
Frame Work Presentation

吉見俊哉：東京大学大学院情報学環長
グローバルシティにデザイン/アートが結びつき、
どのような価値の創造が可能か、社会学の立場か
らの問題提起

Key Note Speech 1.2

加藤種男：アサヒビール芸術文化財団事務局長
産業とデザイン・アートのかわりについて

笠原美智子：東京都写真美術館事業企画課長
行政とデザイン・アートのかわりについて



Panel Discussion

吉見 俊哉（東京大学大学院）	池田 修（BankART 1929）
加藤 種男（アサヒビール芸術文化財団）	臼井 郁夫（東京都産業労働局商工部）
笠原美智子（東京都写真美術館）	森田 昌嗣（九州大学大学院）
コーディネータ	
長田 謙一（首都大学東京）	

Key Note Speech 3

池田 修：BankART 1929・PHスタジオ代表
都市におけるアート・建築・デザインの実践

日時：2006.10.14(土) 14:00～18:00

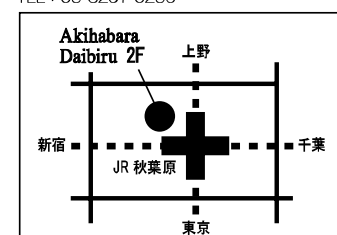
会場：秋葉原コンベンションホールA

会費：3,000円（会員） 5,000円（一般）

但、学生の会員は、1,500円 尚、終了後懇親会（会費制）を予定しています

お問い合わせ：日本デザイン学会本部事務局 03-3301-9318 <http://www.soc.nii.ac.jp/jssd/>

秋葉原コンベンションホール
東京都千代田区外神田 1-18-13 秋葉原ダイビル 2F
TEL：03-5297-0230



第54回 日本デザイン学会 春季研究発表大会 速報

第54回日本デザイン学会春季研究発表大会は、下記のとおり実施いたします。
については、皆様にふるってご参加いただけますよう、お願い申し上げます。

記

日本デザイン学会第54回春季研究発表大会

主催：日本デザイン学会

共催：静岡文化芸術大学

会場：**静岡文化芸術大学**

〒430-8533 静岡県浜松市中央2-1-1

日程：平成19年6月22日（金）から6月24日（日）

（上記日程は、仮の案ですので変更の場合があります。）

内容：第1日 静岡文化芸術大学

- 平成19年度総会
- 開会式
- 基調講演
- 特別講演
- オーガナイズドセッション他

第2・3日 静岡文化芸術大学

- 研究発表（口頭発表・ポスターセッション）
- オーガナイズドセッション
- 閉会式

- その他 エキスカーション（6/22）・懇親会（6/23）を予定しております

問い合わせ先：大会実行委員会事務局（河原林）

Tel&Fax:053-457-6206 E-mail:k-kawara@suac.ac.jp

研究発表の申込方法について

発表の申込はWebからの登録をお願いします（昨年同様）

詳細はデザイン学会ホームページでのご案内をご覧ください

（<http://www.soc.nii.ac.jp/jssd/index.html>）

発表申込についての問い合わせ先：本部事務局

以上

平成18年度研究発表大会・懇親会のご案内

日本デザイン学会 第5支部
支部長 車 政弘

梅雨明けの候、ますますご清栄のことと存じます。さて第5支部では、10月に以下のような目的の研究発表会・懇親会の開催を計画しております。この研究発表会で発表される方を募集いたしますので、ふるってご応募ください。多数のご参加をお待ちしております。

1. 目的

第5支部会員を含むすべての参加者に、大学間の枠を越えたデザイン学および関連する領域の広い交流の場として、研究発表会・懇親会を開催します。同時に、学生の実習、演習課題等の展示発表を通じて、学生のプレゼンテーションテクニックの向上と意見交換の良い機会にしたいと考えます。

2. 発表内容

発表テーマは自由とします。

発表は、「口頭（ポスター）研究発表」と、演習授業等の成果を発表する「学生発表」の2種類とします。

口頭（ポスター）研究発表は、通常の研究発表大会における口頭研究発表およびポスター発表に準ずるものです。また学生発表は、学生プロポジション・ショールームに準ずるものです。

3. 発表形式

「口頭（ポスター）研究発表」は、概要集用の原稿（A4 × 2枚）を必要とします。口頭、ポスターの発表形式は自由とします。

「学生発表」は、すべて自由とします。

4. 発表時間

「口頭研究発表」は、20分以内 / 1人。発表15分、質疑5分。

5. 発表資格

「口頭（ポスター）研究発表」は、デザイン学会会員だけでなく、本研究発表会に限る非会員（一般、大学院生）の参加および発表を認めます。

「学生発表」は、特に参加資格は設けず、学生（大学院生、学部学生）とします。

6. 会費

参加費（概要集を含む）	: 500円
発表費	
口頭（ポスター）研究発表	
会員（デザイン学会会員）	: 1000円
非会員（一般、大学院生）	: 2000円
学生発表	: 無料
懇親会費	: 500円

7. 発表会日程

10月27日(金)	16時～	設営(ポスター展示, 演習モデルの設置など)
10月28日(土)	10時～12時	口頭研究発表
	12時～13時	昼食
	13時～14時	ポスター研究発表
	14時～15時	学生発表
	15時～18時	口頭研究発表
	18時～20時	懇親会

8. 会場

九州大学USI サテライト「ルネット」

【交通アクセス】



《西鉄福岡(天神)駅より》

- 西鉄天神大牟田線：大橋駅下車 徒歩約2分
- タクシー：約15分

《JR博多駅より》

- バス(47番, 48番)：大橋駅下車 徒歩約1分
- 市営地下鉄：天神駅下車 西鉄天神大牟田線へ乗り換え
- タクシー：約20分

《福岡国際空港より》

- 市営地下鉄：天神駅下車 西鉄天神大牟田線へ乗り換え
- タクシー：約30分

※駐車場はありません。ご来館の際は、公共の交通機関をご利用ください。

9. スケジュール

参加希望者

10月6日(金)までに添付の申込み用紙に記入の上, 下記事務局に郵送, ファクス, メール等でお送りください。また, ご参加いただける方は第5支部会員に限らず自由とします。

発表希望者

9月15日(金)までに添付の発表希望登録用紙にご記入の上, 下記事務局に郵送, ファクス, メール等でお送りください。

口頭(ポスター)研究発表をされる方は, 概要集用の原稿(A4×2枚)を電子化(PDF)した上で, 10月6日(金)までに, 事務局へ提出してください。なお, 詳細については, 再度ご連絡いたします。

10. 研究発表・懇親会申込み 事務局

〒815-8540 福岡市南区塩原4丁目9-1

九州大学大学院 芸術工学研究院 人間生活システム部門

事務局担当 田村 良一

電話: 092-553-4534 ファクス: 092-553-4534

E-mail: tamura@design.kyushu-u.ac.jp

大会実行委員会

車 政弘, 工藤 卓, 森田昌嗣, 田村良一, 本間康夫, 井上貢一, 松本誠一, 松隈浩之